

第34回 高速道路の新設等に要する費用の縮減に係る助成に関する委員会

議事概要

1. 日 時 令和2年1月31日(金) 10:00~11:30
2. 場 所 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構 会議室
3. 出席者 <<委員>> 清水委員長、桑野委員、田邊委員、中村委員、芳賀委員、真下委員
4. 議事概要
高速道路会社より認定申請を受けている4議題の経営努力要件適合性について審議を行った。

〔審議事項〕

□新設・改築事業

認定基準 ①ー□ 現場特有の状況に対応するための創意工夫

(議題 1) 仮設ヤードの地盤改良の工夫による埋蔵文化財調査の省力化

□修繕事業

認定基準 ①ー□ 現場特有の状況に対応するための創意工夫

(議題 2) 常設型径間渡り桁の開発による大鳴門橋桁内面作業車改造台数の削減

□特定更新事業

認定基準 ①ー□ 現場特有の状況に対応するための創意工夫

(議題 3) 床版取替システムの開発による狭小ヤードでの通行止め規制回数の削減

(議題 4) PC橋床版打替のプレキャスト化による対面通行規制回数の削減

〔その他〕

5. 議事内容

〔審議事項〕

- 議題1について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

・採用した工法は橋梁の架設後どうなるのか。(委員)

→仮設であるため、工事後は撤去している。(会社補足説明)

・採用した袋詰め工法を実施する中での袋自体の強度に問題はなかったか。(委員)

→トラッククレーンが載ったり、ベント上で橋桁を組み立てるといった大きな荷重条件下で施工した実績が無かったため、改良した地盤の挙動や袋自体が施工に耐えられるかを確認しながら施工した。(会社補足説明)

・本工法を今後も採用していくのか。(委員)

→埋蔵文化財調査が必要な箇所では今後も調査を実施していくが、埋蔵文化財や地盤の状況を確認し、埋蔵文化財担当部局と協議した上で埋蔵文化財調査が不要であり、本工法を採用しても良いと判断された場合には、採用していきたい。(会社補足説明)

・文化財保護と事業進捗の両立を考えた上で、埋蔵文化財担当部局と十分な協議を実施し、埋蔵文化財調査範囲を変更したことに経営努力があると思う。(委員)

●議題2について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・近接点検や補修に対応すべく、近接点検範囲拡大に対応した作業車の改造費が莫大となることが想定された。そこで、主塔部に「径間渡り桁」を常設し、作業車通過時のみ「渡りレール」を設置することで改造台数を削減し、コスト縮減を実現した。(会社補足説明)
- ・今回改造しなかった1号機、3号機は今後どのように使用されるのか。(委員)
- 今後も資材運搬や通常の維持補修で活用していく。(会社補足説明)
- ・この創意工夫は他にも適用可能か。(委員)
- 当社管内の他の橋梁では、それぞれ現場条件が異なるため、本橋梁特有の話と考えている。(会社補足説明)
- ・大変良いアイデアであり、会社の経営努力があったと考える。(委員)

●議題3について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・民地や本線が近接し、施工条件が制約される中で、新たな施工方法である床版取替システムにより、2回実施する予定であった通行止めを1回に削減し、費用だけでなく社会的な影響を軽減することが出来た。(会社補足説明)
- ・床版取替システムは他の施工区間にも使用可能か。(委員)
- 現場条件に制限がなく、通常のクレーン工法を採用可能な場合は、通常のクレーン工法の方が工費は安くなるが、施工ヤードが狭いなど、施工条件が制限される場合は本工法が有利となる。(会社補足説明)
- ・現場の施工条件を踏まえ、社会的影響を軽減したことは大変良い取組みだと考える。(委員)

●議題4について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり

- ・これまで、PC橋の床版は現場でコンクリートを打設することが一般的であったが、新たに開発したキャップスラブ工法を採用し、プレキャスト床版の合成化を可能にしたことで、施工期間を短縮し、費用だけでなく、対面通行規制期間も短縮することができ、社会的な影響を軽減することが出来た。(会社補足説明)
- ・これまでの実績と比べ、広報内容に違いは無いか。(委員)
- 過去のリニューアル工事等の広報実績を参考にしており、広報内容には大きな差はない。(会社補足説明)
- ・コンクリートのはつり出しや、現場打設を省略できることが工期短縮に繋がっているとあるが、現場打設の養生期間の省略も大きく影響しないか。(委員)
- 現場打設の養生期間の省略も影響はしているが、ウォータージェットでなく、コンクリートカッターを使用したことや、橋全体をプレキャスト化したことの影響が大きい。(会社補足説明)
- ・現場の施工条件を踏まえ、社会的影響を軽減したことは大変良い取組みだと考える。(委員)

〔その他〕

- ・これまでの審議状況の説明等を行った。

以 上